

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「みんなで話をつなげよう」 教材名「そうだんにのってください」

2 単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する((2)ア)。互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりしながら話し合える(A(1)オ)。言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝え合おうとする(学年の目標(3))。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	①進んで、相手の発言を受けて話し、学習の見通しをもって、友達の相談にのって話し合おうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、一人が困っていることや考えてほしいことを相談し、聞く人がたずねたり考えを出したりして、少人数で話し合う単元である。学習指導要領第1学年及び第2学年のA(1)オを中心に置く。互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話す力を育てる指導事項である。言語活動はA(2)イ「尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動」に当たる。相談には、相談した人の困りごとを解決するという目的がはっきりあるので、低学年の子どもでも、自分の言いたいことだけを言うのではなく、前の人の話を受けてたずねたり考えを足したりするの必要を感じやすい。「～さんと同じで」「～さんと同じがって」「まず」「それから」など、共通・相違・順序を表す言葉((2)ア)を、前の人の話に自分の話を結び付ける言葉として使う場面にもなる。第1学年で学んだ、話を聞いて感想を言う・たずねる学習を受け、第3学年の、司会を立てて目的や進め方を確かめながら話し合う学習(〔第3学年及び第4学年〕A(1)オ)へつながる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、つなぐ言葉を「たずねる」「同じ」「ちがう」「付け足す」「順番」の五つに分けてカードにし、黒板と手元の両方で見えるようにする。言葉を知るだけでなく、相談会の中で使って、つながった手応えを感じさせる((2)ア)。次に、相談会の前に毎回「相

談した人の困りごとがよくなる考えを出す」という目的を確かめ、話が困りごとから離れたら相談メモに戻る。そして、考えを言う前に一つはたずねる順を、単元の最初から崩さない。相談会での発言を見て、前の人の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりした発言がある姿を「おおむね満足できる」状況、相談した人の困りごとに立ち返り、前の人の考えと比べたうえで自分の考えを言えた姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○先生が用意した相談（学校生活の小さな困りごと）に、みんなでたずねたり考えを出したりする。 ○話がつながった時とつながらなかった時を比べ、単元のめあて「ともだちのそうだんにのって、つなぐ言葉をつかって話そう」をつかむ。	態①（観察）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、前の人の話に結び付けて話す言葉（たずねる・同じ・ちがう・付け足す・順番）を見付けて「つなぐ言葉カード」を作る。	知①（カード・発言）
第2次	3	○自分が相談したいことを決め、「こまっていること」「わけ」「どうなったらいいか」を相談メモに書く。	
	4	○相談する人と聞く人の役を交代しながら、グループで短い相談の練習をする。 ○聞く人は、まずたずねて、くわしく分かってから考えを言う順を確かめる。	
	5	○グループで相談会をする（一回目）。相談した人は、出た考えの中からやってみたい考えを選んで言う。 ○どの言葉で話がつながったかを振り返る。	思①（観察）
	6 （本時）	○相談会をする（二回目）。前の人の発言を受けて、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使い、相談した人の困りごとに合う考えを出し合う。	思①（観察・つなぐ言葉カードの記録）
第3次	7	○相談会をする（三回目）。まだ相談する人になっていない子が相談する。 ○話がよくつながったグループの相談会を全体で聞き合う。	思①（観察）
	8	○相談会を振り返り、話がつながるように使った言葉と、相談にのってもらってよかったことを書く。 ○学級の話し合いや休み時間にも使える言葉を確認する。	知①（振り返り） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (6/8)

(1) 本時の目標

友達の相談を聞いて、前の人の発言を受けてたずねたり考えを付け足したりして、話がつながるように話せる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の相談会で、話がつながった言葉を振り返る。 ○「この前の相談会で、話がつながったのは、どんな言葉を言った時でしたか」 【めあて】ともだちの話を受けて、話がつながるように、そうだんにのろう。 2 本時に相談する人と順番、相談会の進め方(相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める)を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・「どうして」と聞いたら、くわしく分かった。 ・「わたしも同じで」と言ったら、話が続いた。 ・みんながばらばらに言って、つながらなかった。	・前時までに作った「つなぐ言葉カード」を黒板に貼り、手元にも小さいカードを置かせる。 ・相談会の進め方を、四枚の絵カードで黒板に示しておく。 ・人の困りごとを笑ったり、からかったりしないことを、相談会の前に確かめる。
展開 (分)	3 グループで相談会をする。 (1) 相談する人が、相談メモを見ながら困っていることを話す。 ○「相談する人の話で、まだよく分からないことはありますか。たずねてみましょう」 (2) 聞く人が、たずねたり考えを言ったりする。 ○「前の人の考えと、同じですか、ちがいますか。付け足すことはありますか」 (3) 相談した人が、出た考えの中から、やってみたい考えを選んで、そのわけを言う。 4 話がよくつながったグループの相談会を、全体で聞き合う。 ○「どの言葉で、話がつながりましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・それは、いつ困るの。 ・どうしてそうなるの。 ・～さんと同じで、～がいいと思う。 ・～さんとちがって、わたしは～がいいと思う。 ・～さんの考えに付け足して、～もするといいよ。 ・まず～して、それから～するといいよ。 ・「どうして」と聞いたから、くわしく分かった。 ・「付け足して」と言ってから話すと、つながった。	・考えを言う前に、まず一つはたずねる順にする。 ・自分の考えだけを言い続ける子には、「前の人の考えと同じかな、ちがうかな」と問い返す。 ・発言できない子には、つなぐ言葉カードを一枚選ばせ、カードの言葉から話し始めさせる。 ・相談する人が話しにくい時は、相談メモを読み上げてよいことにする。 ・話が困りごとから離れたら、グループの真ん中に置いた相談メモを指して戻す。 ・先生はグループを回り、つなぐ言葉が出た所を記録しておき、全体場で紹介する。 ◎思① 前の人の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりして話している。(観察・つなぐ言葉カードの記録)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「今日、話がつながるように使った言葉はどれですか。相談にのってもらって、どうでしたか」 【まとめ】ともだちの話を受けて、たずねたり、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使ったりすると、話がつながる。 6 次の相談会で相談する人確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・「ちがって」を使って、自分の考えを言えた。 ・たくさん考えを出してもらって、やってみたいことが決まった。	・振り返りは、使ったつなぐ言葉に丸を付け、一言書く形にする。 ・相談した人には、選んだ考えをやってみたら、次の時間に知らせるように伝える。

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

上段左に日付と単元名、めあて。上段右に相談会の進め方（相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める）を四枚の絵カードで左から右へ並べる。中段に「つなぐ言葉カード」を種類ごとに並べる（たずねる：いつ・どこで・どうして／同じ：～さんと同じで／ちがう：～さんとちがって／付け足す：～に付け足して／順番：まず・それから）。下段左に、全体で聞き合ったグループの発言を短く書いて、話した順に矢印でつなぐ。下段右にまとめと、振り返りの観点（使った言葉・相談にのってもらって思ったこと）。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

